

経済・金融概況

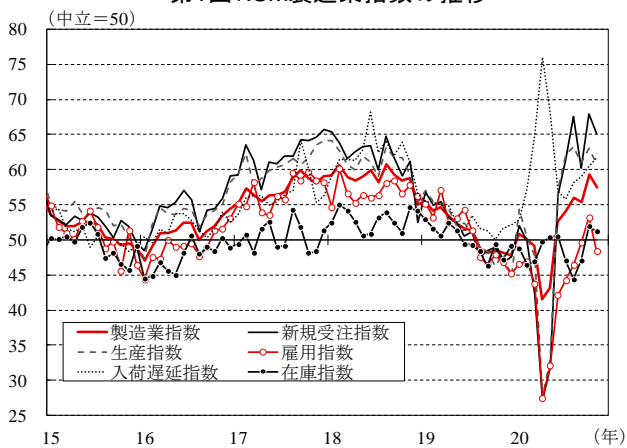
[米国]

1. 企業活動

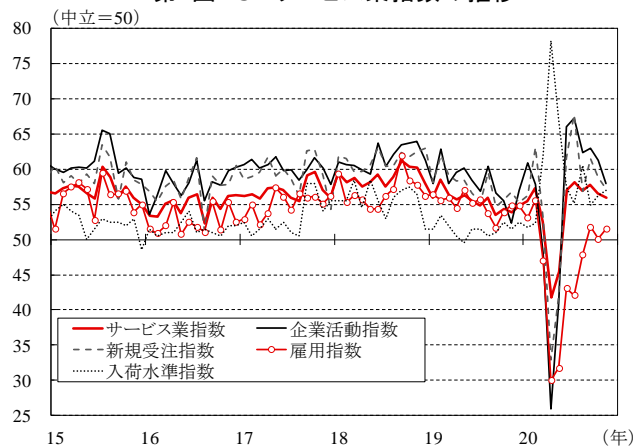
製造業の景況感・活動状況を表す ISM 製造業指数は 11 月に 57.5 と、前月比▲1.8 低下した（第 1 図）。指数の構成項目をみると、入荷遅延指数は 61.7（同+1.2）と上昇した一方、新規受注指数は 65.1（同▲2.8）、生産指数は 60.8（同▲2.2）、雇用指数は 48.4（同▲4.8）、在庫指数は 51.2（同▲0.7）と夫々低下した。産業別にみると、18 産業のうち 16 産業が前月から活動の拡大を報告し、2 産業が縮小を報告した（10 月は 15 産業が拡大、2 産業が縮小を報告）。回答企業のコメントをみると、新型コロナウイルス感染拡大を抑止するための従業員の自己隔離や、パンデミック下で採用活動が困難なことが人手不足に繋がっているようであり、それが 11 月の製造業の活動拡大ペースを緩やかにした一因のようでもある。

サービス業の景況感・活動状況を表す ISM サービス業指数は 11 月に 55.9 となり、前月比▲0.7 低下した（第 2 図）。指数の構成項目をみると、雇用指数は 51.5（同+1.4）、入荷水準指数は 57.0（同+0.8）と上昇した一方、企業活動指数は 58.0（同▲3.2）、新規受注指数は 57.2（同▲1.6）と低下した。産業別にみると、18 産業のうち 14 産業が前月から活動の拡大を報告し、4 産業が縮小を報告した（10 月は 16 産業が拡大、2 産業が縮小を報告）。

第1図：ISM製造業指数の推移



第2図：ISMサービス業指数の推移

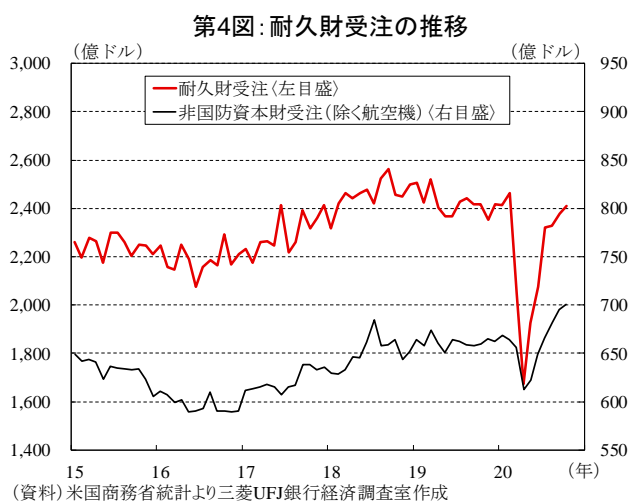
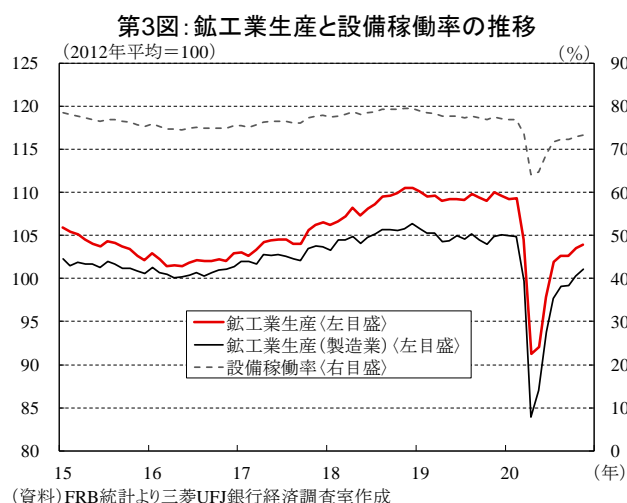


2. 生産

11 月の鉱工業生産は前月比+0.4%と 2 ヶ月連続で増加した（10 月：同+0.9%）（次頁第 3 図）。内訳をみると、「公共事業」は同▲4.3%減少した一方、全体の 75%程度を占める「製造業」が同+0.8%、「鉱業」が同+2.3%増加した。「製造業」の内訳をみると、「電機」（同▲0.8%）、「機械」（同▲0.5%）、「非金属鉱物」（同▲0.1%）などが減

少した一方、「自動車・同部品」(同+5.3%)、「一次金属」(同+3.7%)、「航空機・その他輸送用機器」(同+1.8%)、「コンピュータ・電子機器」(同+1.1%)などが増加した。11月の鉱工業生産はパンデミック前の2月に比べると依然として▲4.9%減少した水準にある。11月の設備稼働率は73.3%と前月から同+0.3%ポイント上昇した。

10月の耐久財受注は前月比+1.3%となり、9月(同+2.1%)から増加ペースが減速した(第4図)。内訳をみると、「コンピュータ・電子機器」(9月:同+1.3%→10月:同+3.2%)は増加ペースが加速し、「電機・家電」(9月:同▲0.8%→10月:同+0.9%)は増加に転じた一方、全体の3割強を占める「輸送用機器」(9月:同+3.3%→10月:同+1.4%)や「一次金属」(9月:同+4.5%→10月:同+0.4%)は増加ペースが減速し、「機械」(9月:同+0.7%→10月:同▲0.3%)は6ヵ月ぶりに減少に転じたほか、「家具」(9月:同▲0.3%→10月:同▲0.4%)は減少ペースが加速した。「加工金属」(同+2.3%)は9月と同じ増加率であった。設備投資の先行指標とされる非国防資本財受注(除く航空機)は10月に前月比+0.8%と9月(同+1.9%)から増加ペースが減速した。



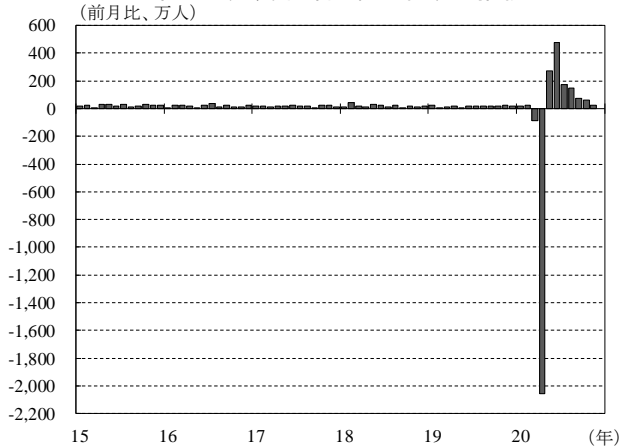
3. 雇用・個人消費

11月の非農業部門雇用者数は前月比+24.5万人増加し、10月(同+61.0万人)から増加幅が縮小した(次頁第5図)。業種別にみると、増加幅が拡大したのは「輸送・倉庫」(10月:同+6.2万人→11月:同+14.5万人)だけであった。「専門・ビジネスサービス」(10月:同+23.1万人→11月:同+6.0万人)、「教育・医療・社会扶助」(10月:同+6.2万人→11月:同+5.4万人)、「建設業」(10月:同+7.2万人→11月:同+2.7万人)、「レジャー・飲食」(10月:同+27.0万人→11月:同+3.1万人)などは増加幅が縮小したほか、「小売業」(10月:同+9.5万人→11月:同▲3.5万人)は減少に転じ、「政府」(10月:同▲26.7万人→11月:同▲9.9万人)は3ヵ月連続で減少した。

11月の失業率は6.7%と前月から▲0.2%ポイント低下し(次頁第6図)、労働参加率は61.5%と前月から▲0.2%ポイント低下した。11月の時間当たり平均賃金(民間部門)は、

前月比では+0.3%上昇し（10月：同+0.1%）、前年比では+4.4%と10月と同じ上昇率であった。

第5図：非農業部門雇用者数の推移



(資料) 米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

第6図：失業率の推移



(資料) 米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

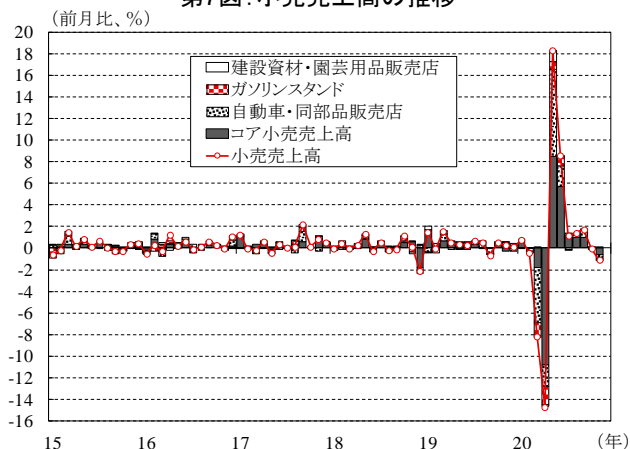
11月の小売売上高は前月比▲1.1%と2ヵ月連続で減少した（10月：同▲0.1%）（次頁第7図）。内訳をみると「食料品店」（同+1.6%）、「建材・園芸用品店」（同+1.1%）、「無店舗小売業」（同+0.2%）は増加した一方、「衣服販売店」（同▲6.8%）、「飲食店」（同▲4.0%）、「電子機器・家電販売店」（同▲3.5%）、「ガソリンスタンド」（同▲2.4%）、「自動車・同部品販売店」（同▲1.7%）、「家具販売店」（同▲1.1%）、「総合スーパー・百貨店」（同▲1.0%）、「スポーツ用品等販売店」（同▲0.6%）などが減少した。

パンデミック前の2月と比較すると11月の小売売上高は+3.6%増加した水準にある。内訳をみると「飲食店」（同▲18.6%）、「衣服販売店」（同▲16.5%）、「ガソリンスタンド」（同▲15.0%）、「電子機器・家電販売店」（同▲8.0%）などが大きく減少している一方、「無店舗小売業」（同+26.9%）、「スポーツ用品等販売店」（同+16.0%）、「建材・園芸用品販売店」（同+14.9%）、「食料品店」（同+10.9%）などは大きく増加しており、業態間の差が大きい。また、小売売上高は前年比では+4.1%増加している（10月：同+5.5%）。

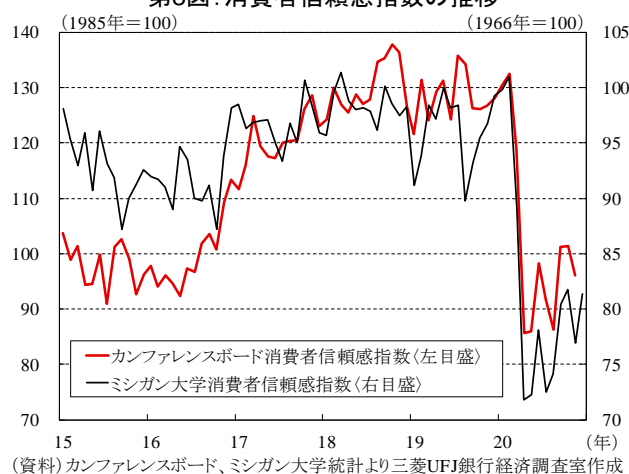
消費者マインドをみると、11月のカンファレンスボード消費者信頼感指数は96.1となり前月比▲5.3低下した（次頁第8図）。内訳をみると、現況指数は105.9（同▲0.3）、期待指数は89.5（同▲8.7）となり夫々低下した。

12月のミシガン大学消費者信頼感指数（速報値）は81.4となり前月比+4.5上昇した。内訳をみると、現況指数は91.8（同+4.8）、期待指数は74.7（同+4.2）となり夫々上昇した。調査責任者のカーティン氏は指数上昇の一因として、大統領選挙で民主党バイデン氏が勝利したことを受けて民主党支持者の間で見通しが改善した点を指摘している。

第7図：小売売上高の推移



第8図：消費者信頼感指数の推移



4. 住宅

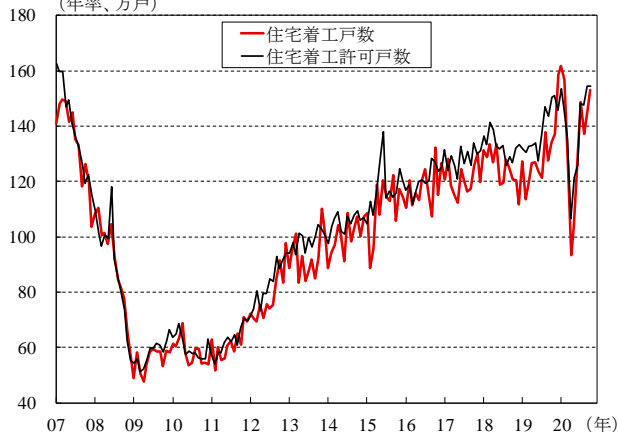
10月の住宅着工戸数は前月比+4.9%増加して年率153.0万戸(季節調整済)と、9月(同+6.3%)から増加ペースが減速した(次頁第9図)。内訳をみると、一戸建住宅は同+6.4%増加して年率117.9万戸となり、変動の大きい集合住宅(2世帯以上)は9月と同水準の年率35.1万戸だった。また、着工戸数の先行指標である住宅着工許可戸数は同▲0.1%の年率154.4万戸と2ヵ月ぶりに減少した(9月：同+4.7%)。

住宅販売について、中古住宅販売戸数^(注1)は10月に前月比+4.3%増加して年率685.0万戸(季節調整済)となり、2006年2月以来の高水準となった(9月：同+9.9%) (次頁第10図)。在庫率は2.4ヵ月(季節調整済)と2ヵ月連続で低下した(9月：2.5ヵ月)。販売価格(中央値)は313,000ドル(季節調整前)と前年比+15.5%上昇し、9月(同+14.7%)から上昇ペースが加速した。

新築住宅販売戸数は10月に前月比▲0.3%の年率99.9万戸(季節調整済)と、6ヵ月ぶりに減少した(9月：同+0.1%)。在庫率は3.3ヵ月(季節調整済)と9月と同率であった。販売価格(中央値)は330,600ドル(季節調整前)と前年比+2.5%上昇し、2ヵ月連続で前年比上昇した(9月：同+5.0%)。

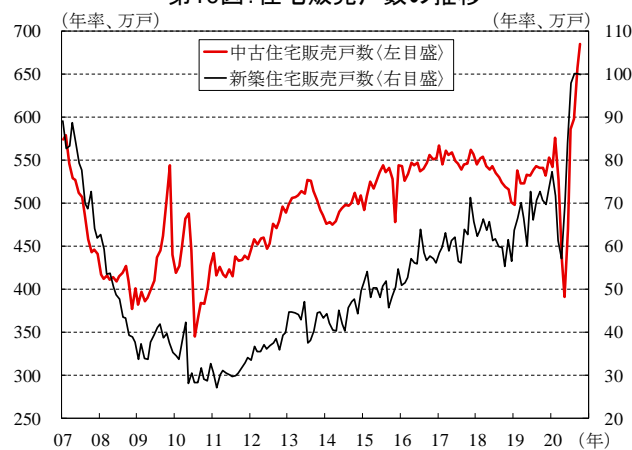
(注1) 中古住宅販売は住宅販売戸数の9割程度と大半を占める。

第9図:住宅着工戸数と住宅着工許可戸数の推移
(年率、万戸)



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

第10図:住宅販売戸数の推移



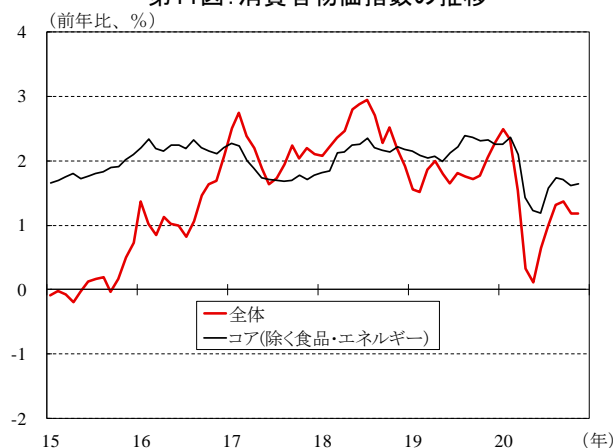
(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 物価

11月の消費者物価指数は前月比+0.2%上昇した(10月:同0.0%)。内訳をみると「食品」(同▲0.1%)、「医療」(同▲0.1%)などが低下した一方、「衣料」(同+0.9%)、「エネルギー」(同+0.4%)、「住居」(同+0.1%)などが上昇した。消費者物価指数は前年比では+1.2%上昇した(第11図)。「食品」と「エネルギー」を除いたコア消費者物価指数は前月比では+0.2%、前年比では+1.6%上昇した。

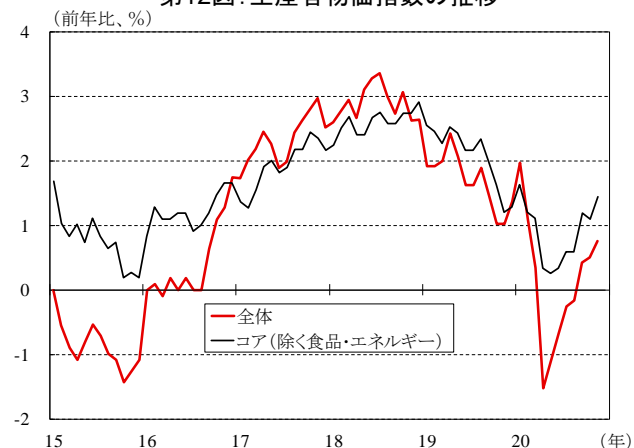
11月の生産者物価指数は前月比+0.1%と、10月(同+0.3%)から上昇ペースが減速した。内訳をみると、「財」は同+0.4%上昇し、「サービス」は前月比横這いであった。生産者物価指数は前年比では同+0.8%と、2月以来の高い伸びとなった(第12図)。内訳をみると「財」は同▲0.8%低下した一方、「サービス」が同+1.5%上昇した。「食品」と「エネルギー」を除いたコア生産者物価指数は前月比では+0.1%、前年比では+1.4%上昇した。

第11図:消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

第12図:生産者物価指数の推移



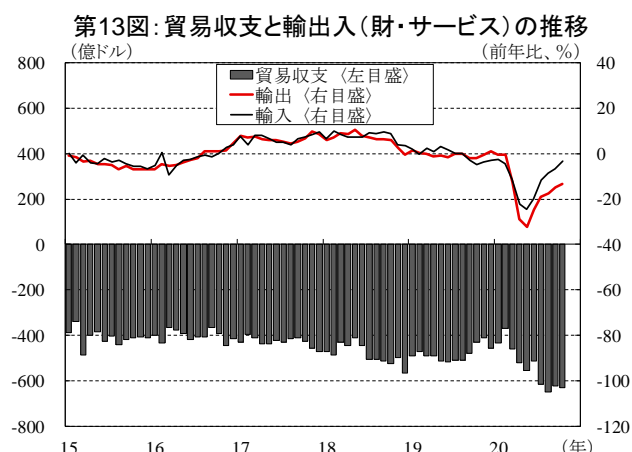
(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 国際収支

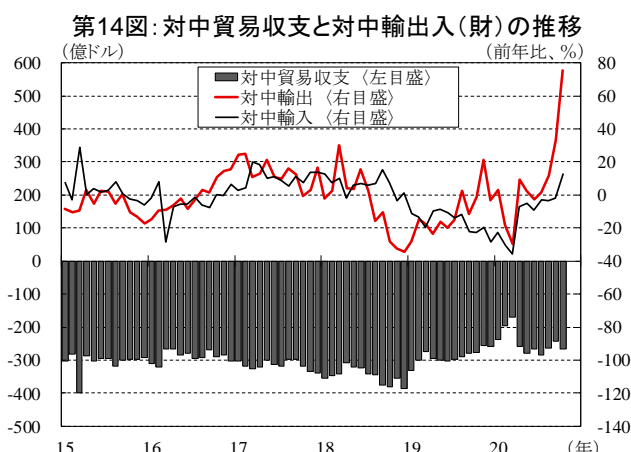
10月の貿易収支（財・サービス）は631億ドルの赤字となり、赤字幅が前月比+1.7%拡大した（第13図）^{（注2）}。財収支は814億ドルの赤字となり、赤字幅が同+0.8%拡大し、サービス収支は183億ドルの黒字となり、黒字幅が同▲2.2%縮小した。輸出は同+2.2%、輸入は同+2.1%夫々増加した。

財の貿易収支を国・地域別にみると、米国の貿易赤字（財）の4割程度を占める中国との貿易赤字は10月に265億ドルとなり、赤字幅が前月比+9.0%（同+22億ドル）拡大した（第14図）。また、中国に次いで貿易赤字が多い対メキシコでは貿易赤字（財）が118億ドルとなり、赤字幅が同+10.5%（同+11億ドル）拡大した。

（注2）貿易収支は国際収支ベース。但し、国・地域別内訳は通関ベース。



（注）国際収支ベース。
（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成



（注）通関ベース。
（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 金融市場動向

ダウ平均株価は、新型コロナウイルスワクチンの開発への期待から上昇基調を維持し12月4日に過去最高値を更新したが、その後は一進一退で推移している（次頁第15図）。

10年物国債利回りは、11月後半は0.8%台で推移していたが12月に入ると追加経済対策への期待から上昇し、12月前半は0.9%台で推移する時間帯が多くなった（次頁第16図）。

第15図:ダウ平均株価の推移



第16図:10年物国債利回りの推移



参考表：主要月次経済指標の推移

	20年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
企業活動・生産	ISM 製造業指数	50.1	49.1	41.5	43.1	52.6	54.2	56.0	55.4	59.3	57.5	-
	ISMサービス業指数	57.3	52.5	41.8	45.4	57.1	58.1	56.9	57.8	56.6	55.9	-
	鉱工業生産指数(2012年平均=100)	109.3	104.5	91.3	92.1	97.8	101.9	102.7	102.6	103.6	104.0	-
	前月比(%)	0.1	▲4.4	▲12.7	0.9	6.2	4.2	0.8	▲0.1	0.9	0.4	-
	設備稼働率(%)	76.9	73.6	64.2	64.8	68.9	71.8	72.3	72.3	73.0	73.3	-
	製造業受注(億ドル)	4,965	4,418	3,823	4,117	4,382	4,669	4,698	4,759	4,808	-	-
	前月比(%)	0.2	▲11.0	▲13.5	7.7	6.4	6.5	0.6	1.3	1.0	-	-
雇用・個人消費	うち耐久財受注(億ドル)	2,462	2,050	1,675	1,926	2,075	2,319	2,329	2,378	2,410	-	-
	前月比(%)	2.0	▲16.7	▲18.3	15.0	7.7	11.8	0.4	2.1	1.3	-	-
	非農業部門雇用者数(前月比、万人)	25.1	▲137.3	▲2,078.7	272.5	478.1	176.1	149.3	71.1	61.0	24.5	-
	時間当たり平均賃金(ドル)	28.52	28.69	30.03	29.70	29.32	29.35	29.45	29.47	29.49	29.58	-
	前年比(%)	3.0	3.4	8.0	6.6	4.9	4.6	4.6	4.7	4.4	4.4	-
	失業率(%)	3.5	4.4	14.7	13.3	11.1	10.2	8.4	7.9	6.9	6.7	-
	個人所得(年率、億ドル)	191,162	187,635	210,931	202,461	200,327	202,145	197,088	198,559	197,259	-	-
前月比(%)	0.8	▲1.8	12.4	▲4.0	▲1.1	0.9	▲2.5	0.7	▲0.7	-	-	
個人消費	個人消費(年率、億ドル)	148,774	138,785	121,121	131,654	140,146	142,188	143,941	145,696	146,405	-	-
	前月比(%)	▲0.0	▲6.7	▲12.7	8.7	6.5	1.5	1.2	1.2	0.5	-	-
	貯蓄率(%)	8.3	12.9	33.7	24.7	19.0	18.6	15.1	14.6	13.6	-	-
	小売売上高(億ドル)	5,273	4,839	4,128	4,882	5,300	5,359	5,434	5,528	5,525	5,465	-
	前月比(%)	▲0.4	▲8.2	▲14.7	18.3	8.6	1.1	1.4	1.7	▲0.1	▲1.1	-
	自動車販売台数(年率、万台)	1,677	1,136	872	1,211	1,302	1,463	1,511	1,630	1,628	1,555	-
	前月比(%)	▲0.6	▲32.3	▲23.2	38.9	7.5	12.4	3.3	7.9	▲0.1	▲4.5	-
カンファレンスボード消費者信頼感指数	132.6	118.8	85.7	85.9	98.3	91.7	86.3	101.3	101.4	96.1	-	
ミシガン大学消費者信頼感指数	101.0	89.1	71.8	72.3	78.1	72.5	74.1	80.4	81.8	76.9	81.4	
住宅	住宅着工戸数(年率、万戸)	157	127	93	104	127	149	137	146	153	-	-
	前月比(%)	▲3.1	▲19.0	▲26.4	11.1	21.9	17.5	▲7.7	6.3	4.9	-	-
	中古住宅販売戸数(年率、万戸)	576	527	433	391	470	586	598	657	685	-	-
	前月比(%)	6.3	▲8.5	▲17.8	▲9.7	20.2	24.7	2.0	9.9	4.3	-	-
物価	新築住宅販売戸数(年率、万戸)	72	61	57	70	84	98	100	100	100	-	-
	前月比(%)	▲7.5	▲14.5	▲6.9	22.5	20.3	16.5	2.2	0.1	▲0.3	-	-
	消費者物価指数(1982~84年=100)	258.7	258.1	256.4	256.4	257.8	259.1	259.9	260.3	260.4	260.2	-
	前月比(%)	0.1	▲0.4	▲0.8	▲0.1	0.6	0.6	0.4	0.2	0.0	0.2	-
国際収支	前年比(%)	2.3	1.5	0.3	0.1	0.6	1.0	1.3	1.4	1.2	1.2	-
	生産者物価指数(2009年11月=100)	118.4	118.1	116.7	117.3	117.7	118.4	118.6	118.8	119.4	119.2	-
	前月比(%)	▲0.5	▲0.4	▲1.3	0.5	0.3	0.6	0.2	0.4	0.3	0.1	-
	前年比(%)	1.1	0.3	▲1.5	▲1.1	▲0.7	▲0.3	▲0.2	0.4	0.5	0.8	-
輸出(財、億ドル)	1,385	1,278	957	900	1,031	1,155	1,190	1,227	1,263	-	-	
	輸入(財、億ドル)	1,982	1,937	1,674	1,661	1,748	1,964	2,029	2,034	2,078	-	-
	貿易収支(財、億ドル)	▲598	▲659	▲717	▲761	▲718	▲809	▲839	▲808	▲814	-	-
	貿易収支(財・サービス、億ドル)	▲370	▲461	▲519	▲556	▲512	▲614	▲649	▲621	▲631	-	-

(注)『消費者物価指数』とその『前年比』、『生産者物価指数』とその『前年比』は季節調整前。

(資料)各種統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱UFJ銀行 経済調査室

ニューヨーク駐在 岡田 知恵 cokada-wighe@us.mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。